

閉会挨拶（4月8日）

運輸総合研究所理事長補佐に4月1日付で着任いたしました小瀬と申します。直近は、鉄道運輸機構の理事長代理として勤務しておりました。初めてご挨拶させていただく方も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、お疲れのところ恐縮ですが、今後のお知らせの前に少しお時間を頂戴して一言ご挨拶申し上げます。

まず、貴重なお話をしていただきました東北大学の奥村先生、JR 東日本の内田様、東武鉄道の小林様、金沢大学の山口先生、日本大学の金子先生、また、御参加頂いた大勢の視聴者の皆様、そして、当研究所の活動を御支援頂いている日本財団に御礼を申し上げます。

本日のテーマに関連して、鉄道運輸機構で勤務していた頃の話を中心に申し上げますと、利用者としての話ですが、本社は横浜にあり、時間をかけて通勤している職員は多く、台風などの災害時において、仕事への影響を避けつつ、いかに職員に円滑に帰宅、出勤してもらうかは、毎年のように直面する課題でした。計画運休の動きにも注意を払い、その公表があれば、備え、心構えになる一方、事態が改善した際にいかに迅速に出勤するかが課題であったように記憶しています。また、コロナ感染拡大に伴うリモートワークの環境整備により、在宅勤務が勤務形態の一つとして定着していく中で、自然災害、計画運休に対し具体的にどう対応するかは、次のステップであったかと思いますが、より柔軟に対応できる環境は整いつつあります。いずれにせよ、本日のテーマは、多くの通勤客や企業にとっても大変関心の高いものであったと思います。ご参加の皆様方より多くのご示唆をいただきましたことに、改めて御礼申し上げます。

さて、当研究所では、令和3年度の活動の重要テーマの一つに、安全・防災・気象を位置付けて取り組みを進めております。本日のセミナーは、この一環として開催させていただきました。このほかに、自然災害時に交通・運輸企業がいかに事業継続を行っていくか、事業継続に焦点を当てた研究を後藤客員研究員が開始しており、今後、本日のセミナーをきっかけにして、当研究所としてもこのテーマを深めて参りたいと存じます。また、機会があれば、関連のセミナー等を開催し、皆様と一緒に考えて参りたいと存じますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

最後にご案内ですが、視聴者からの強いご希望を踏まえまして、4月以降に開催するセミナー、研究報告会等の発表録画内容について、本日のセミナーも含めまして、登壇者の承諾が得られれば、皆さまに配信することを予定しています。原則は、賛助会員に先行して1か月、その後広く一般に5カ月間配信する予定にしております。

私からは、以上です。この後、事務局から今後の予定のお知らせがあります。
本日は、最後までご視聴いただき、誠に有難うございました。